

# 議 事 録

会議等の名称	第4回東部地区小学校給食センター 建設検討委員会	開催日時	令和7年2月27日(木) 午後7時00分～午後8時25分
		場 所	中央公民館3階 講堂
主催者(事務局)	教育委員会事務局 教育課 学校施設係	司会者	教育課長
出席者	(敬称略)		
	<p>【委員】小林佑次、森澤隼門、岡部春希、龍野正和、鹿取ちか、田中章子 宮下 聡、正村千香、荻原理子、五十嵐英美、西澤正浩、柳沢幸子、竹村洋子 白井 哲</p> <p>【東御市教育長】山口千春</p> <p>【事務局】深井芳信、土屋岳史、小宮山真二、小林靖宗、内村友香</p>		
欠席者	【委員】佐藤公美、白石隆宏、佐橋真意、依田昌弘		
議 題	<p>(議題)</p> <p>(1) 食物アレルギー対応について</p> <p>(2) その他</p>		
決定事項  (要点を箇条書き)	<p>・東部地区小学校給食センターにおいては、献立の変更、使用食材の変更及び食物アレルギーの種類を工夫すること等により、これまでと変わらない給食提供をすることを基本方針とする。</p>		

討議内容及び 経過	(発言者名)	(発言内容)
	事務局	この会議については公開で行われますのでご了承ください。
		1 開 会
	事務局	開会・進行
		2 教育長あいさつ
	教育長	あいさつ
		3 会議事項
	委員長	(1) 食物アレルギー対応について、事務局説明をお願いします。
	事務局	(1) 食物アレルギー対応について、資料に基づき説明
	委員長	事務局から説明がありましたが、ここで各校で行われている食物アレルギー
		対応について説明をお願いします。
	委員	田中小学校でも医師の指導表に基づき、個別取組プランを作成している。
		給食だけではなく、学校生活そのものに対する要望もあるため、調理実習や
		宿泊学習の対応も行っている。その他にも、教室掲示用のアレルギー対応を
		記載した献立表作成・掲示することで、担任が休みであっても一目でわかる
		工夫をしている。
		また、エピペン使用の児童のランドセルの横に、どこにエピペンが入って
		いるかを掲示して、万が一のときにすぐに対応できるようにしている。
		献立作成に関しても、担当栄養教諭だけでなく別の学校の栄養教諭にも
		確認いただき、ダブルチェックしている。配膳の際には、配膳室において
		栄養教諭から担任へ対応食を手渡し、担任が対象児童の机に置き、その後、
		養護教諭、栄養教諭がそれぞれチェックすることとしている。
	委員	滋野小学校においても、個別カゴに入った対応食を担任が持っていくことと
		している。
	委員	柵津小学校では、その他に校長の検食の際に、調理主任からアレルギー対応
		内容の説明を受けている。
	委員	和小学校においても、人数が少ない中で細かな対応がある。実際に、エピ
		カツの代替食としてトンカツの提供があり、子どもたちも喜んでいた。
	委員	調理員同士でアレルギー知識の共有が大事だと思う。
	委員	子どもがまだ食べたことのない食材の場合、その都度窓口に行ってどんな
		食材かを確認することはセンターになってもできるのか。
	事務局	事前に連絡をいただければ対応は可能です。加工品の場合には、業者から
		成分表を取り寄せているため、そういったものの提供も可能です。
	委員	大雪などの災害の際に、献立が急遽変わるといったこともあると思うが、
		そういった場合のマニュアルはあるのか。

討議内容及び 経過	事務局	給食を提供できないといった場合の危機管理マニュアルがある。仮に急な
		献立の変更がある場合には、アレルギー対応がないものを提供することになる。
	委員	アレルギー対応児童には、新しい加工品や冷凍食品がある場合には、成分表
		を保護者に確認してもらっている。
	委員	エピペンとはなにか。過去にアレルギーによる事故の例はあるのか。
	委員	深刻なアレルギー症状がある場合に、症状を緩和させるために使用する自己
		注射のようなものです。
	委員	使用方法に関しては、各校において職員へ研修をしている。
	委員	国の指針作りに携わったことがあるが、例として乳アレルギーの児童が
		チーズを食べ症状を発症し死亡してしまった事故があった。この事故は、
		代替食としてチーズのっていないものを提供していたが、通常食をおかわり
		してチーズ入りの給食を食べてしまったことによるもので、
		・通常、アレルギー対象児童はおかわり禁止などおかわりしたこと
		・教職員がチーズが入っていることを失念したこと
		・献立名に「チーズ入り」といったわかりやすい表記にできなかったこと
		・児童がエピペンを打つことを拒みそれに教職員が従ってしまったこと
		・動かしてはいけないところ、トイレに行きたいとの申し出で行かせたこと
		など、悪いことが偶然に重なってしまったことによる事故だった。
	事務局	東御市には救急搬送が伴うような事故はないが、給食で初めて食べた果物で
		かゆみを訴えた例はある。そういった場合は、保護者と面談し対策を検討して
		いる。
	委員	子どもはどんな行動するかわからないときがある。先生の見えていないところ
		で、自分で勝手に食べてしまうといったこともあると思うが、そのあとの対応
		ができる体制を今後も整えてほしい。
	委員	昔の学校給食では、クルミや蕎麦くらの対応で、また、代替食を提供する
		といったこともなかった。アレルギーも多様化している中でアレルギー対応を
	細かく対応するようになっており、大変な仕事だと思う。おいしい給食は作れば	
	良いというわけではなく、衛生管理、健康状態に合わせた提供を行っており	
	すごい労力と知恵でやってもらっている。	
委員	北御牧学校給食センターを見学した際に、非常に細かく対応していると感じ	
	た。アレルギーも時代とともに変化していくと思うので、毎年確認するような	
	マニュアル作りが必要と思う。	
委員	細かく対応してもらっているとは思いますが、アレルギーを持つ親や子はすごく	
	こわいと思う。丁寧な対応をお願いしたい。	
事務局	毎年個別取組プランを更新し、対応を行っている。センター化にあたっては	
	変わらず保護者、学校、給食関係者が連携して行っていきたい。	

討議内容及び 経過	委員	調理に関しては、すごく気を使って調理されている。センター化にあたって
		は、受配校での受け渡しが重要になると思う。
	委員	人員配置については、稼働してから必要な部分や足りない部分がかかること
		もあると思う。現場が過度な負担とならないように配慮してほしい。
	事務局	受配校との受け渡しに関しては、マニュアル化などにより体制を整えたい。
		人員配置についても、先進事例を参考に検討するが運用していく中で修正
		は必要になると考えている。
	委員	検食の話があったが、現在は各校の校長が行っているとのことだったが、
		センターになった場合はだれが行うのか。
	事務局	センターになった場合でも、給食センターの中だけではなく受配校において
		も検食を実施することとなる。
	委員	農作物の供給側としては、徹底した防除対策を行い、農薬は使用しているが
		防除日誌により安全を確認したうえで学校に供給している。子どもたちの人体
		影響のないように危険な農薬を排除していきたい。生育には化学肥料が必要
		だができるだけ有機質肥料を使った栽培に取り組みたい。
	委員	自分が子供のころに残さ0活動があったが、これは食べられないのに頑張
		って食べてしまうといったこともあると思う。先生と子どもで自己意識を
		高めるために、確認できる機会があれば事故が防げるのではないかと思う。
	事務局	各校で残食0を目指している。残食0を目指して無理しておかわりをして
		事故が起きている事例もある。学校全体で、無理な残食0を目指すことがない
		よう安全管理を行っていききたいと思う。また、家庭との連携も重要となる。
	委員	先生だけではなく、子どもたち同士においても友達のアレルギーを把握する
		ことも重要だと思う。
	4 その他	
事務局	本日が今年度最後の会議となる。組織の代表として参加いただいているPTA	
	や保護者会連合会については、4月以降に新しい代表者へ推薦依頼を行うので	
	引継ぎをお願いしたい。	
	5 閉会	